

再びその人らしい生活に

ふれあいひろば

2019年 夏号 Vol.89

愛仁会リハビリテーション病院

三島圏域地域リハビリテーション
地域支援センター

- 住所：高槻市白梅町5番7号
- 電話：072-683-1212
- URL：http://aijinkai.or.jp



- 1面 愛仁会ふれあい広場 オープンから1年が経ちました
- 2面 (連載) チーム医療活動のご紹介⑨ 高次脳ワーキング / 高槻在宅サービスセンターのご案内
- 3面 地域クリニックとの連携の中で②
- 4面 患者さまだより② / 高槻在宅サービスセンターだより

地域交流スペース

愛仁会ふれあい広場

オープンから1年が経ちました 愛仁会ふれあい広場事務局 松原 健一



わかりやすい
リハビリ教室



昨年4月、愛仁会リハビリテーション病院3Fに地域交流スペース愛仁会ふれあい広場がオープンし「ふらっと・ぱらっと・まなんでささえる～健やかプロジェクト～」をコンセプトに1年間、様々な催しを行いました。

元気体操クラス



笑いヨガ



まず、「地域に向けた研修会」として、当法人のうち高槻地区各施設(高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院・しんあい病院・介護老人保健施設ケアイ等)の職員が講師となり、骨粗鬆症、糖尿病等についての予防や介護保険制度についての研修会を開催しました。また「行政・地域団体との協働の場」として高槻市長寿介護課や高槻中央地域包括支援センターと連携を図り、元気体操クラスや介護予防教室等を開催。そして「地域に開放した活動(ボランティアの集い・患者会など)の場」としては、ふれあい広場サポーターの方々(地域住民の方々でふれあい広場の運営サポート・広報・企画等を主体的に担っていただいております)が主催の催しである、笑いヨガ・スマートフォン教室・ミニ花サークル・笑い文字等を開催しました。また、高槻病院にがんで通院・入院中の患者様、ご家族様を対象に、同じ病気をもった者同志で語り合える患者会を開催しました。

今後もこのような催しを通じて地域住民の方々や医療・福祉に従事する方が集い、語らいやコミュニケーションを通じて互いに学べる場、地域の文化が醸成できる場所として、たくさんの方々にご利用いただければと思います。

また今後の催しといたしまして、2019年12月5日(木)に「大人の健康測定会」の開催を予定しております。地域住民の方々の健康啓発・健康推進・予防医療・介護予防等に役立つ支援の提供を「健康計測の実施」を通じて行います。計測内容等の詳細につきましては、今後チラシ・ポスター等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしております。



チラシやパンフレット ご自由にお取りください

高次脳機能障害 ワーキンググループ

公認心理師 佐野 恵子

脳は、以下の機能があり、
これらを高次脳機能と呼びます。

- ・言葉の意味を理解する
- ・ものの名前を覚える
- ・経験を蓄積する
- ・集中する
- ・計画して行動する
- ・感情をコントロールする など



脳が損傷するとこれらがうまく働かなくなり、日常生活が困難になる場合があります。それが高次脳機能障害とよばれる状態です。生活の中で困ることが増え、障害についての周囲の理解も乏しく患者様の困りごとに気づかないため、対人関係トラブルが起こる場合があります。

当院では、特に就労する年代の方を対象に、医師・脳卒中リハ認定看護師・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・公認心理師の多職種がチームとなり、生活支援や訓練内容の提案を行っています。訓練中や病棟生活の様子を病棟スタッフの情報から把握し、まず病院で落ち着いて生活を送るにはどのようにすればよいのか検討します。一日のスケジュールを自己管理できるか、通学・通勤・業務に必要な能力は何かを想像しながら検討しています。退院前には、退院後の生活をイメージし準備出来ているか、退院後に困ったことを相談できる機関が調整できているのかなど、協議しています。また、退院後にアンケートを実施し、日常生活の様子や復職・復学の状況をおうかがいし、今後の患者様の支援に生かします。患者様がよりよい生活を送るための支援ができるよう努めてまいります。



高槻在宅サービスセンターのご案内

高槻在宅サービスセンター センター長 堂園 直美

高槻在宅サービスセンターは、ケアプランセンター、ヘルパーステーション、訪問看護の3つの機能を有しています。ケアプランセンターは市内に4か所あり、18名のケアマネジャーが、利用者の方々が主役になる・個性を大切にできるよう、疾病の予防を目的にケアプランを作成しています。

ヘルパーステーションは市内に2か所あり、利用者の方々が住み慣れたご自宅で安心して生活が送れるよう、ホームヘルパーが、生活援助や身体の介護サービスを提供しています。訪問看護は、訪問看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士がおり、ご自宅での療養生活に必要な看護援助やご家族の支援、リハビリテーションを、小児から高齢者の方を対象に提供しています。

ご自宅での療養生活に不安がある、どこに相談してよいかわからない、などといった内容でも構いませんので、一度お尋ねいただければ、と思います。



高槻在宅サービスセンターは、
愛仁会リハビリテーション病院の3Fにあります。
お気軽にお尋ねください。



宗光診療所

脳神経外科
脳神経内科

〒569-1024 高槻市寺谷町38-15

TEL.072-687-6700

<https://www.m-cl.net> [宗光診療所]

検索

訪問診療等で日々お世話になっている
宗光診療所 宗光 博文院長先生に
インタビューさせていただきました。

Q 開業されたきっかけは？

A 京都大学医学部附属病院、関連施設で勤務してきましたが、高槻市日吉台界隈の地域の方々から強いご要望、応援があり、開業させていただくことになりました。開業して約30年経ちますが、4世代で診させていただいている患者さんもあり、地域の方々には本当に支えられてきたと思います。

Q 診療所の特徴は？

A 診療所を立ち上げる際に目指したのはハイレベル、ハイスペックな医療を提供できる診療所で、大学病院でやっている外来をそのまま診療所に持ってくることをコンセプトにしました。MRIなど最新機器を導入し、大学病院並みの診療が行えるようにしており、京都大学脳神経外科関連医療施設に認定されています。診療科は脳神経外科・神経内科ですが、救急外科や小児脳神経外科の経験もあるので、内科、外科、小児科まで幅広い疾患に対応しております。診療所に来られることが難しい場合、ご自宅に伺う訪問診療も行って、京都や亀岡など遠方でも可能な範囲は診療に行かせていただいています。

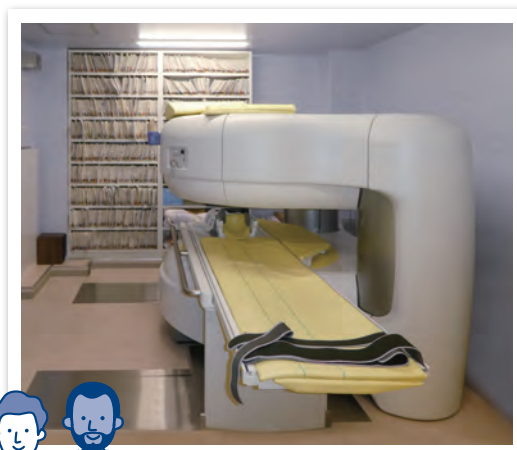
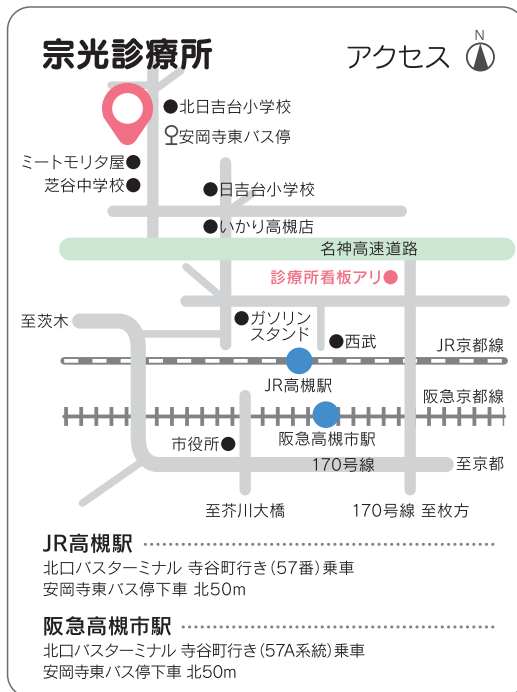
東北や九州など県外に加え、アメリカ、中国、タイなど海外からも診療を受けに来られる患者様がおられるようで、先生に対する信頼の厚さが窺えました。当院からの患者様をご紹介させていただく際も、力強く引き受けていただき頼もしい限りです。宗光先生お忙しい中ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

◀ 宗光 博文 院長

診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
17:00~20:00	●	●	●	●	●	—

【休診日】土曜午後と日曜・祝日



▲MRI(磁気共鳴式全身断層撮影装置)



INTERVIEW

インタビュー

地域医療部 水本 裕美子

在宅で介護して7年目に突入したDさん夫婦にお話を伺ってきました。

Dさんは2012年くも膜下出血発症し、急性期病院で治療後、当院でリハビリ入院となりました。当院から退院した後、療養病院への転院を繰り返していたのですが、「(寝たきりの状態が)変わらないんやったら家で」という思いをずっと抱いていました。そして、5カ所目に入院した病院で少し状態がよくなったのをきっかけに、ご家族様・病院の反対を押し切り、在宅での介護に踏みこられました。

Q 在宅での介護はどのようにですか？

ご主人:色んなことがあるよ。夜は体位交換・3時間おきのオムツ交換・発熱もあるしな。横で寝ていると起こされることもあるし。やれるまでやってみようと思っている。気力だけは負けないよ。すっぽん料理屋をやって、妻の入院を機に息子に譲ったのは残念だったけど、一つの人生だと思っている。趣味の釣りや1時間半のウォーキングができないけれど、3年前からメダカを育てて、近所の子供にあげたり、家の前で畑仕事をしているよ。



一つの人生だと思っている。趣味の釣りや1時間半のウォーキングができないけれど、3年前からメダカを育てて、近所の子供にあげたり、家の前で畑仕事をしているよ。



メダカや野菜の栽培など、ふと気の抜ける時間を持つことも、介護を続ける上で大事だとご主人様から教えていただきました。



その他にご主人様は、奥様に少しでも良くなってもらいたいとかかりつけ医の先生に内服薬や気管切開の抜去などの相談をされていたようです。退院が終わりではなく、退院後も患者様、ご家族様が抱える不安や思いに対応できるように医療機関も積極的に関わっていくことも私たちの果たす役割だと思いました。



愛仁会高槻在宅サービスセンターだより

た機族がしでがて積少歩人可
会とのつずがあいくんでし行混
も増外、自、り、く、で、練、は、み
え、出、信、少、要、れ、を、う、の、ま
、で、



脳梗塞を患い、退院後も復職に向け、リハビリテーションに取り組まれているKさんに、ついでに紹介いたします。Kさんは愛仁会リハビリテーションセンターに退院し、自宅に戻りましたが、複視(ものが見えにくい)や難聴が残存しており、主に屋外での移動に不安がある状態でした。退院翌日から週2回の訪問リハビリテーションが開始されました。当初は自宅周辺のみの屋外歩行練習でしたが、徐々に距離が延び、今では実際にバスを利用して駅前まで外出する練習が可能となりました。

復職に向けての不安と闘いながら、前向きにリハビリテーションに取り組む

愛仁会リハビリテーション病院 訪問リハビリテーション 泉 稜子

最近では杖無しでの歩行にもチャレンジできました。自宅でも入院中に指導された自主練習を毎日継続されており、身体の状態や目的に合わせて随時メニューを追加しています。訪問リハビリテーションは入院中のリハビリテーションとは違い、毎日介入することができません。そのため、ご本人様の積極性やご家族様の協力が不可欠だと考えています。少しでもKさんの不安を軽減できるよう、復職予定の8月までしっかりサポートさせていただきます。